

Aki-Akano

- 中編 -



This is "Orihime&Tatsuki@BLEACH" fanbook
Presented by TANA@Garyuh_Chitai in 2007 winter

for Adult Only

Aki-Akano

むかしむかしあるところに
おばあさんとお母さんと小さな姉妹がいました。

おばあさんは妹に絵本を読んであげました。
妹はとても喜びました。
お姉ちゃんは絵本を読みませんでした。

「だってあたしは子供じゃないもん」

となりでお母さんが微笑みます。
でも お母さんも絵本を読んでいました。

「ママは子供なの？」

「ううん。ママは大人よ」

“大人”と“子供じゃない”は同じではないのよ。
大人はね絵本をさかさまに読むの。
おしまいがはじまり。
幸せな結末 不幸な結末 | それスタート。
“むかしむかしあるところ”に向かって
ページをめくっていくの。
そしたら ほら すごく眠くなって眠くなって
でも 眠れないの。

どうしてこうなったのだろう。
なぜ出会ったのだろう。
なぜ争ったのだろう。
なぜ負しいのだろう。
なぜ嘘をつくのだろう。
なぜ幸せになったのだろう。
いや そもそも彼らは本当に幸せなのだろうか。

こうなることさえ知っていたなら。
この結末を ああ 知っていたならば。

それが 大人 なのよ。

「ふうん」

あたしにはよく分かりません。
でも やっぱり子供でいいやって思いましたとさ。

めでたしめでたし。

可彩くくる「おとなの絵本」より



Contents

- p05 Aki-Akane (中編)
- p37 作品解説・次回予告
- p38 あとがき・真付



はあ…んっ
夜一さまあ…っ
もう…もう私…

可愛いぞ 碎蜂

ふふ、尸魂界で
ずいぶんとストレスが
溜まっているようじゃな



あ…あ…っ
お願いです…私のケツ穴に…
淫乱なクソ穴マンコに



『もう』…何じゃ？
ハッキリ言わぬと…
このまま終わりじゃぞ？



チンポを…
夜一様のチンポを
入れてください…っ

ふっふっ♡
ふっふっ♡

トロオ…♡

ダメじゃな
もつと詳しくハッキリ言って
貰わねば分からぬぞ

ここでは おぬしは
『軍団長様』ではない
遠慮は無用じゃぞ

は…はい…っ
申し訳ございませぬ
夜一さま…っ

私は…夜一様のチンポを
お慰めするケツ穴奴隷
です…っ！

あつちでは偉そうに
隊長面をしているながら本心では
このドスケベな肛門に
夜一様のキンタマ汁を
射精してもらおうことだけを
考えて毎日毎日クソ穴オナニーを
している変態なんです…っ！

この人物を
探してもらいたい

ふふ まあ待て
実はおぬしに一つ
頼みがあつての

あああつ
早く…くださいっ！
お願いします…っ

ははは そこまで
卑下しなくとも良いのに
それほどチンポ汁が
欲しかったのじゃな
まったく愛いヤツよのう♪



はあ…はあ…
な何者…
なのでですか…

とある知人から
会わせて欲しい…と
依頼があつての

死んだ後 虚になって死神に
消されたが その時の状況が
少々特異なケースでの

おそらく今は流魂街にいると
思われるが普通の者とは
異なる霊圧を持っている
可能性が高い

それを元に探せば
隠密機動部隊なら
すぐに見つけられる

どうじゃ
引き受けてくれるか？

んはああつ！

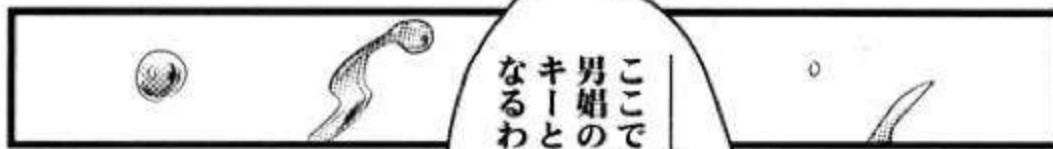
わ 分かりましたあつ！
探します…から…っ！

ああ…お願いしますっ！
チンポっ！ チンポチンポ
チンポおっ！

そうか♪ ありがたい
じゃあ たつぷりとお礼を
してやろう…クソ穴が
壊れるまでたつぷりと…のう♪

ズツツツツツ！

んひいひいっ！
あ、あひっ！ あ、あへえっ！
ありがとう…ござりますううっ！
んあおおおあああーっ！



——というわけで
ここで物語の主人公である
男娼のオウガイが三篇ユツ
キーとアレな関係に
なるわけだが

現代の人文学的考察においては
これらのことを『總受け』と
言っ

あの日——織姫と
初めて愛し合った夜から
二ヶ月が過ぎた

一見 いじもどまじの
平穩な日常が続いている
ように見える

ここテストに出るから
しっかりノートとれよー

だが それは
全然違つて事態は
より危険なほうへ
動いている——らしい

夜一さんの話によればこの町が
「王鍵」とやらを作る重要な
土地になつてい

それに伴つて虚とかいう
輩が出没する頻度も
多くなつてい

当然 死神代行とやらを
やつてる一護はもちろん
仲間である織姫も戦いの場
に出て行くことが増えてきてい

じゃあ次の
ページからを…

有沢
読んでくれ

有沢の
現代

あの日 あたしが織姫を
全身全霊で受け止めた
ことで彼女は戦いに
向き合つことができた
ようになった

今も一護たちに比べれば
弱いけれど人を護ることに
大きな誇りを持っている

正直 あたしも戦いたい
織姫を護りたい
愛する人を危険なところへ
行かせたくなんてない

だけど 織姫は一方的な
運命を受け入れた
そしてあたしはそんな
彼女を受け入れたのだ

ならばあたしの『運命』
とはなんだろうか

それはきっと彼女が凄惨な
戦いの中でも決して失う
ことの無い『日常』という
存在になること

あの子の居場所になること
それが あたしの戦い

井上織姫の
魂を人の世界に
繋ぎとめる——鎖

だから
あたしは決して変わらない
——そう心に決めた

よし
そこまで

有沢 ついでに
ちよっと聞きたいんだが

最近 ずいぶんと
雰囲気変わったかな
何かあったのか？

ずいぶん色っぽく
なったって職員の間でも
噂になってるぞ

な…

どっきん

いつもどおりの制服だし
メイクしてるわけでも
ないのに

なんかやたら
色気が出てきてるし

え…？

ぼぼ

今だって
スケベな男子だけじゃなくて
女子の視線もウツトリしてた
みたいだぞ

ほいーん

むーん

夏の悪戯

風の悪戯

ちよ…い いきなり
何を…っ

ほらほら
そーいう仕草が
かわいーんだって





ふふ たつきちゃん
確かに変わったよね

いやー…気のせい
なんじゃ…

もう いつも
そうやって素直じゃ
ないんだから

ちよ…ダメっ
あううっつ!



んああつ!

ほら 出てきた

こんなに大きな
チンポ生やしちゃって
変わってないなんて
説得力ないよ

んああああ!
あつ…やああつ!

クス…可愛い声だして
すっかりマゾチンポ狂いに
変わっちゃったじゃない

ずるん



違う…違うよっ
織姫と…あんたと一緒に
なりたかったから…

…そうだよね
私のせいだよね…



まさか自分から
夜一さんに頼んで
生やしてもらうなんて

もしかして
もともとチンポ大好きな
変態さんだったの?



私がいっつも甘えちゃうから たつきちゃんを変態にしちゃったんだよね

他の人には言えないことできないこと... たつきちゃんにやらせて止めてもらえるから

ああ... おしりい... あな... あな...

ごめんね チンポ大好きな淫乱ケツ穴便器にしちゃってごめんね



違う これはあたしが勝手に望んだこと

は... はあ... はあ... おしり...っ

欲しい... ああ... 早く... 舐めさせて...

織姫のせいなんかじゃない



織姫は戦っている いつ現れるか分からない 虚と命がけて戦っている

だから そんな彼女を支えるために自らを捧げることにした

たつきちゃんやああん! す... 吸ってえ! もっと... 奥まで... 舐めて... あああああつ!

んぐううっ!

んほおっ! んぶっ! んぶうっ!

— そう 思い込んでいた

織姫は特殊な能力を
持っているとはいえ
一護たちのような強さを
持っているわけじゃない

そのまま正面から虚と
戦っても勝てない
それに、やつらは
いつ現れるか分からない

だけど唯一 確実なのは
『敵は必ずこの町に現れる』
ということ

だからあたしたちは
一緒にこの町を調べた
戦いに有利な場所
被害の出にくい場所
罾を仕掛けられる場所
逃げやすい場所
各人の能力を最大限に
生かせる場所

地道で微弱な対策だけど
彼女の戦いとその効果は
確実に現れていた



休日 早朝 放課後
ほとんど毎日 目的を
ともにして生活や
時間を共有した

その積み重ねが
織姫の身を護っている
という実感

それは危険な戦いに
織姫を送り出す立場でしか
ない自分にとって大きな
安心を与えてくれたし

自分が彼女とともに居る
意義を感じさせてくれる

やがて二人で町を巡り
ともに過ごす時間は
デートなんかよりも
はるかに濃密で愛しい
ものになっていった



放課後の教室だけじゃない
夜の公園や夕方の遊歩道で
早朝の路地で白昼の廃屋で

二人きりになると
どちらからともなく
手をとり寄り添い抱き合い
身体を求め合うようになった





そう 織姫のせいなんか
じゃない

日常の中で 常に非日常を
意識して過ごす という
時間は二人だけにしか
理解できない

だからいつも以上に
互いを求め合ってしまう
より強く より長く
より激しく より狂おしく

確かにあたしたちは
変わったーだが
それは自らの意思で

恋人よりも肉奴隷よりも
もっと違う濃密な関係
特別なパートナー

その満足感に
溺れていただけ

ただし
一つだけ

そんなあたしたち
だからこそ
侵せない場所もある

あああんっ！
すごい…お尻…
犯されてるうっ！

んぶっ！ んぢめるっ！
んぶっ！ んぢめるっ！

はあっ！ ああっ！
舌で…こーもん
ぐちよぐちよおっ！

ぶちゅ
ぶちゅ

ぶちゅ
ぶちゅ

ああん…たつきちゃんも
興奮してるうっ！
お尻のニオイでチンポ
勃起させちやってるよおっ！



あああ...おつききてやらしい
チンポお...たつきちやんの
変態チンポ大好きだよお

んぐろろろろろ?

ハッ!

ハッ!



あはっ♪ 分かる?
たつきちやんの
好きな足コキだよっ

んおっ! おっ
おふああああっ!

ね、気持ちいい?
私もセクスリ気持ち
いいよ...っ!

たつきちやんのマソチンポ
踏みながら...うんち穴犯され
ながらチンポオナニーしてるよっ!

ハッ!

ハッ!

ハッ!

ハッ!

もう…だめ…っ!
織姫…お願い!
お願いいっ!

かけて…チンポにいいっ!
いつもみたいに…
あたしのマゾチンポに
射精してえっ!

んあああつ!
たつきちゃん…たつき
ちやあんっ!

ガッガッガッガッ!

グッホッ!

きやううっ!
あつ! ああつ!

一緒に…いっ!
いっしょに…いっ!

あんなあんな
あんなあんな
あんなあんな

ウウウ



越智先生の言うとおり
こんなの見たら男の子も
女の子もほっとけないよ

それに加えて処女なのに
ケツ穴セックスもチンポ
いじめも大好きで

んああつ!

ぬちゅんっ♡

にちゅんっ♡
にちゅんっ♡

皮の中に射精されて
イツちやうなんて…
んふ…可愛すぎるよ…

ぬらお…っ



んひいっ! そこ…
らめえっ! チンポ
穴あ…ああんっ!

ぐちゃぐちゃ
ぐちゃぐちゃ



いいのかなあ…私
こんな素敵な女の子を
独占しちゃって…

…?



たつきちゃん
可愛い…

チンポも二人分の精液で
ぬちよぬちよ…あはっ
まだピクピク跳ねてる♪

えへ…変なこと言って
ゴメンね

なんだか幸せすぎて
時々思っちゃうの
私でいいのかなあ…って

それに…たつきちゃんが
どんどん素敵になって
いくのを見てると

いつか戦いとか運命とか
関係ない普通の恋をする
相手とめぐり合うんだ
ろうなあ…って

織姫……



ナニ言ってるんだ
この
馬鹿野郎。



『私でいいのかな』
じゃないでしょーが
『あんたじゃないとダメ』
だっつーの

あーもう！
なんかムカついてきたっ！
運命とか戦いとかムズかしいこと
全部アンタのせいじゃないって
思ってたけど撤回！

全部 アンタの
せいに決定！

初めて出会った日から
ずっとアンタは可愛くて
キレイで頼りないくせに
誰より強くて
おまけにドエロ！
だからアタシは
惚れちゃったの！
心底愛したの！
これまでも！
これからも！

わかった？

生きようが死のうが
ぶっちゃけ世界が
どうなるうが
アンタが井上織姫で
ある限り有沢たつきは
ずっとアンタのモノなの！



……うん

ありがと…たつきちゃん
あは…っ
なんか不思議だね

何で愛してる人の言葉って
こんなに強いのかな

不安も疑問も迷いも
全部コテンパンにされちゃって
心の中が裸にされちゃって
素直な自分しか
いなくなるんだもの

でも 好きとか愛してるとか
ありがと…とか
そんな言葉しか返せない
自分が悔しいなあ

だから 私の精一杯の
気持ちでご奉仕させて

たつきちゃんの
心も身体も全部
気持ちよくしてあげたい

ほあ…っ♡

そして 私だけの
女の子にしたいの…



だけど ねえ...気づいてる？
織姫もどんどんステキに
なってるんだよ？

あたしだって織姫を
ずつとずつとずつと...
独占したい

誰も代わりなんて
できないように
自分でいいのか・なんて
不安にならないように
チンポの味も形も
全部覚えこませてあげる



んっ...ふ...うっ！
熱いよ...織姫...っ

ああ...ん...っ だつて...
あんなこと言われたら...
嬉しくって...身体じゅうが
熱くなっちゃうよお...



んはあああつ！
キタああ...ああつ！
キタ...ああおあああつ！

ひああつ！ 太い...
おつきいいつ！
いつもより...あああつ！
チンポすごいいいつ！

織姫の肛門も...あああつ！
すごい...い、いつもより...
熱くて...チンポに吸い付いて
くるううっ！



ねえっ！ これ…何？
チンポにぐちゅぐちゅって
絡み付いてきてるの何？

やああ…いぢ…わるう…
分かってるくせに…っ

言っ…織姫の口から
ききたいの！

はああ…う…
うんビ…らよお…っ

ズンズン
ズンズン
ズンズン
ズンズン



なに？ もっと
大きな声で…詳しく
言ってくれないと…
抜いちゃうよ？

いやああっ！
抜いちゃダメ！
ダメ！ ダメえええっ！



うんちっ！ うんこおっ！
一週間もためてたウンコおっ！

あつ！ んひいつ！
お腹の中が…
う…うんちが…ウンコが
かき回されてるうっ！

ズンズン
ズンズン
ズンズン
ズンズン







水...水...水...
水...水...水...

水...水...水...

ん...あっ

あ...ふあああっ...



あ...はあ...あ...っ



私も…悦んで
もらえて嬉しい…

気持ち…いい…
せーえきウソお…
すごい…熱いよお…

は…あああ…

トロオ…

アキヤッ♡
アキヤッ♡

アキヤッ♡



あはっ♡

ちゅるるる

でも独り占めは
ダメだよ？

せーえきうんち
まみれのオツパイ…
いただきまます♪

んこ

んこ

んこ

んこ

んこ!

んこ!



はあ...はあ...
 すこい...織姫の
 おっぱいミルクが
 混ざって...
 ちんぼもまた
 勃起してきたよお...

は...あ...うん...
 ゴボゴボ
 んぐ...うん...

ドロオ...!!

きょう一回...する...

一回で済めば
 いいけど...ね?





部屋の鍵
預かってくよ

先に帰って待ってるから
風呂入れてメシの用意して
布団敷いて

いつもどおり
信じて待ってる
それがあたしの
役目でしょ？

でも あまり遅かったら
先に寝ちゃうからね

チャリ

うん

行ってきます！

.....

『それが役目』
.....か

苦勞をかけて
すまん たつき

立ち聞きってのは
いい趣味じゃないね

夜一さん

……と
そっちの人は？

尸魂界から呼んだ
死神での

護廷十三隊
二番隊長
碎蜂だ

あー 正解ってのが
使えないのに隊長に
なったヒトね

夜一さんを殺そうとしたけど
実はツンデレでそれからと
いうものすっかり身も心も
夜一さんのDMな貧乳淫乱
肉奴隷になって幸せな毎日を
過ごしましたとさめでたし
めでたし(夜一・談)
って人だろハジメマシテ

ナニ言ひあらして
るんですか
夜一様あつ！

アッ！
アッ！
アッ！

実はこの前
おぬしから頼まれた
人探しの件じゃが

碎蜂が見つけて
くれてな

あーあの件ね。

感謝しろ！
そもそも夜一様に人探しを
押し付けるなど無礼千万！
今すぐ万死に値する！

落ち着け
碎蜂

ありがとーネ。

……で『そいつ』はもう
こちらに来ているが……
井上が行ってしまったな
——どうする？

……せっかく
探してもらったんだ
今から会おうよ

それに

あの娘の前じゃ話しづらいこともあるからね

えー！
もう倒しちゃったの？

死屍

累々

井上が仕掛けてくれた落とし穴にスッポリはまってやがった

ていうか、なんでそんなに残念そうなの

おかしな暗殺だぜ

びびー!!

次は私がつくまで残しといてね！
絶対だよ？ 約束だよ！

たつきちやん くらげぶよー

ダッパ

お、おう…
すまん…

ごめん…

もー！ せっかく感動的な別れのシーンを演出してきたのにー！

じたんた じたんた
キッ キッ

当キッ! 当キッ!

このまま帰っちゃったらまた笑われちゃうよー

たつきちやんすぐたのろまのろま、さ言うんだよー

うおつ？
どうした石田！

ドバドバ

いや、滅却師の誇りにかけて気のせいだと思うけど…

一瞬、井上さんのスカートの中にありえないモノが見えた気が…

ていうか、井上はねなかつたよな、いや、まさか



夜一さん?

ソノオシ
メニ



……あれ?
部屋の前に誰か……



おかえり
ご苦労じやったの

あの……もしかして
たつきちゃんに
何かあったんですか?

いや 問題ない
少々 取り込み中
じゃがの

?



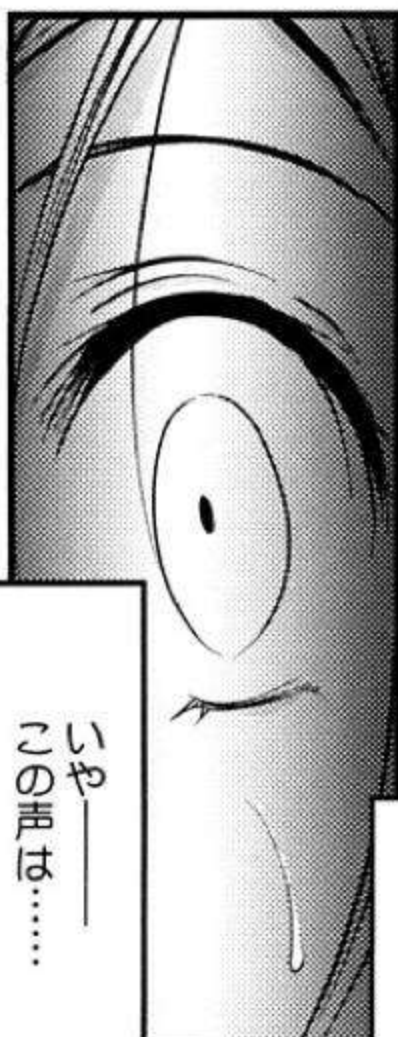
客人が
来ておつてな

え……
お客さん?

部屋に入るのはい
いいが邪魔しない
ように静かに

はあ……

いそがしう
せうかあ
……



いざ——
この服を……

いや
気にしないでくれ
こつちも……少し気には
なっていたんだ
むしろ有難いよ

え……
男の人?



お久しぶり……
こうして会えるとは
思ってたなかった

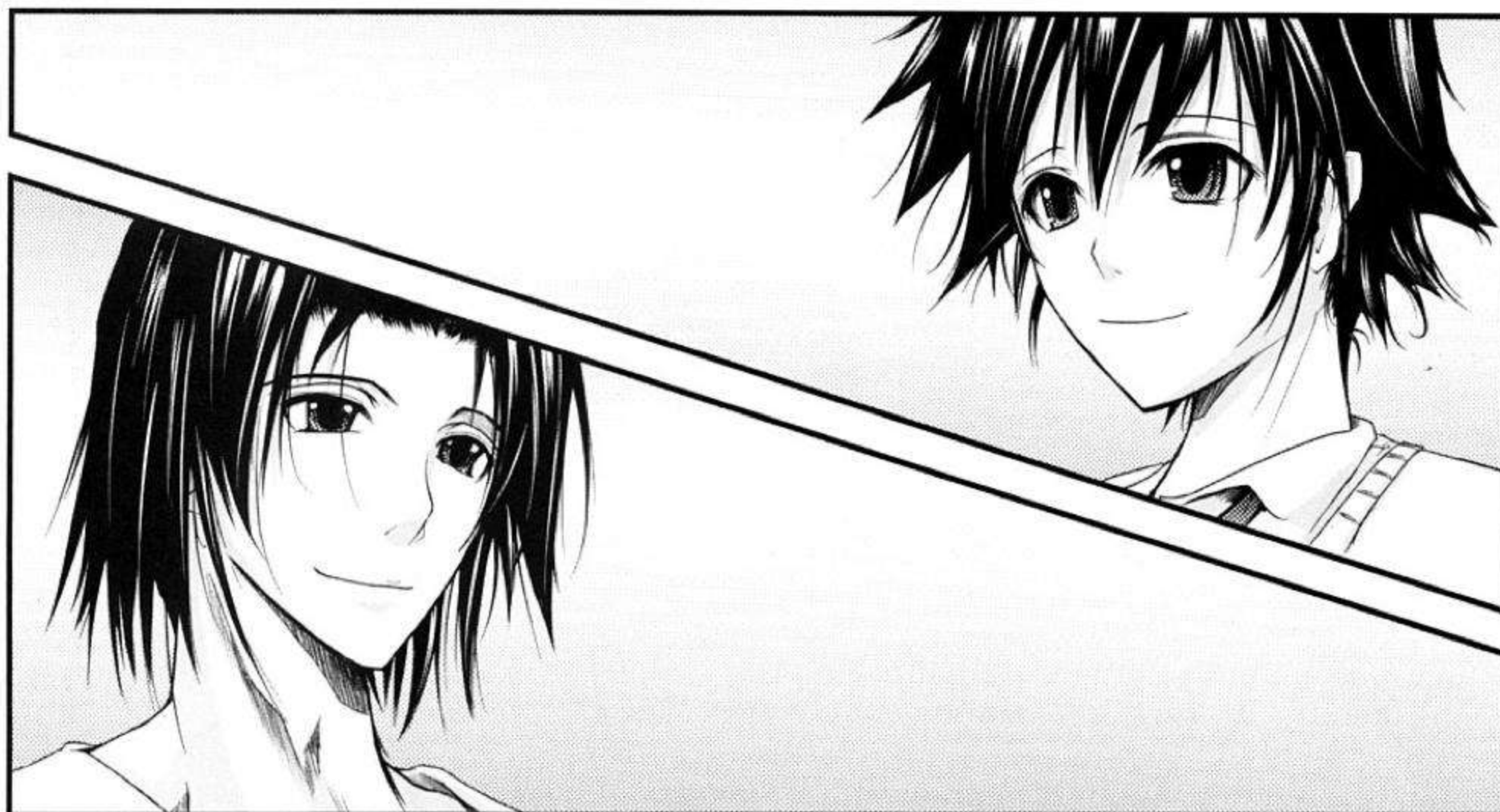
突然で申し訳ないけど
どうしても話が
したくて……



誰だろ……
お客さんを呼ぶなんて
聞いてないけど……

また会えてよかったよ
——有沢たつきさん

まさか——



to be continued...

空座町☆危機一髪

単行本 23巻より

作品解説

・次回予告(?)

うううん、登場人物増えまくりでゴザイマス。

碎蜂は夜一とのカラムを想定して今回のプロット段階で急遽登場させたのですが、オニイチャンについては前編を考えた段階で出すことを決めていました。というか、これ以降のストーリーを描きたくてこのシリーズを描いたと言っても過言じゃありません。

僕の同人作品に普通の男キャラが出てくるのって珍しいんで昔から読んでくださってる方々は「えー？」って思われたかもしれませんね。ヒロイン二人と(エロシーンで)どのように絡めていくのか、まだプロットが出来てないので分かりませんが…うーん、3P? 部屋の外の二人も混ぜて5P…いやいやそれは流石に……。

もしかしたらオニイチャンを良く知らない人もいるかもしれないので軽く説明しておきますと、織姫と一回り以上歳の離れた兄ですさんだ両親の下を、当時3歳だった織姫をつれて逃げ出し男手一つで妹を育てたナイスガイです。しかし約4年前に交通事故で死亡。その後、強い織姫への想いのせいで虚となってしまう織姫のもとへ変わり果てた姿で現れる…という人物です。

生の姿は単行本の1巻のみでしか出てきません。マイナーすぎるキャラなのですが、織姫やたつきが虚や死神に初めて遭遇する大きな契機を作った人物といえます。

本作はこのあと、そのときのシーンをベースにしたストーリーとなりますので、もし知らないという人がいましたら原作の1巻だけでも買ってみてください。もちろん、それと知らずに手に取ってくださる読者さんもおられると思うので、後編でもちゃんと解説は入れますけど。

ブリーチ原作の序盤はたつきもいっぱい登場シーンがあるのでお得ですよ！ そして1巻が気に入ったら全巻そろえちゃうってのもいいかも。どうでしょうか。今の時点で30巻越えてますけど。

今作の表紙はちょっと幻想的な雰囲気にしてみました。たつきの服のヒラヒラ部分とか織姫の服の泉っぽいのは原作に出てきた「霊絡(れいらく)」を意識してます。そしてランプのようなものをぶら下げてるバックの物体はクモをイメージしたもので、たつきが織姫を捕らえて、織姫も身体を委ねている不安の中に安堵を見出している、というテーマでもあるのですがぶっちゃけスパイダーマンの影響だったりもします。ガハハ。

商業作品ではスカヤフタのほかにも、こういう世界観を描く機会がないので、同人の表紙は描いてとても新鮮だし、気合が入ります。次号の表紙も描きたいネタは決まっているので、頑張ろうと思います。表紙に騙されて中を見てギャーとなった方々には申し訳ありませんが、笑って許してください。

以上、駄文でした。



あとがき

さて、近況というか来年のお話をば少し。

商業媒体で描いてきたイラストや漫画を単行本にする動きが出てきております。

具体的なスケジュールは決まっていらないのですが、おそらく夏ごろになるかなあ、と。夏コミの前になるか後になるか微妙なところですよ…。

はじめは小説家デビューを思い描いていて、仕事もゲームシナリオライターからはじめたのに、個人名を冠したはじめての著作物が漫画という……なんとも紆余曲折のある数年間だったなあ、と思っております。

無事に単行本が出た暁には、絵に関してド素人だった自分にいろいろ教えてくれた編集さんや友人にお礼を言わなくちゃいけないですね。本当にいい出会いがあったからこそ今こうして暮らしていけてるんだなあ、とオジサンくさい述懐をしたりしてますよ。

同人誌については、いちおう今までどおり年に二冊を予定しているのですが、仕事の都合上、時期はコミケとずれてしまう可能性も否定できません。先述のように単行本化の作業がコミケ作業の時期とかぶってしまう恐れもありますんで…。うまく調整していきたいですね。

今回はAki-Akaneの後編となる予定です。完結編にするつもりですが、どうなることやら。現時点での感想などメールやミクシィのメッセージでお寄せいただければ幸いです。

では また次の作品でお会いしましょうー。

2007年12月31日 TANA

※右のサンプルはコミック天魔 2007年12月号掲載 「キミの瞳に欲情(コイ)してる」第三話のものです。

【奥付】

発行：我流痴帯

著者：TANA

2007年12月31日発行

e-mail：garyuh@tana00.sakura.ne.jp

URL：http://tana00.sakura.ne.jp

印刷：しまや出版

※18歳未満の購読・閲覧を禁じます。

※この本の内容を無断で転載・複製・

WEBなどで配布することは厳禁です



Aki-Akane - 中編 -

我 流 痴 帯

<http://tana00.sakura.ne.jp>

2007_winter

